

明治大学国際交流基金事業 研究者交流支援制度 報告書

農学部 農学科 応用昆虫学研究室

教授 糸山 享

研究者氏名 Dr Judit Arnó Pujol

Institute of Agrifood Research and Technology

招聘期間 2024 年 8 月 22 日～8 月 31 日（10 日間）

2024 年 8 月 22 日から 31 日までの 10 日間、スペインのバルセロナ近郊に所在するカタルーニャ州立農業食料技術研究所 (IRTA) の Arnó 博士を招聘しました。Arnó 博士は、2014 年の短期在外研究で大変お世話になった受け入れ研究者であり、帰国後に当研究室で展開してきた研究手法の指導者でもあります。今回の招聘では、研究手法の見直しと成果の取りまとめについて、多くの助言を頂くことができました。

8 月 22 日(木)昼頃、羽田空港に到着され、駿河台キャンパスで事務手続きを行った後、生田地域に移動しました。翌 23 日(金)の午前には黒川農場を案内し、カタルーニャ州と日本の都市近郊農業における害虫管理について意見を交換しました。午後からは生田キャンパスに移動し、研究圃場や昆虫飼育施設を巡りながら、当研究室の研究について、大学院生を中心に内容紹介を行いました。15 時 20 分からは、当研究室が不定期開催している「明大昆虫セミナー」の第 69 回を、「カタルーニャ州における園芸作物の総合的害虫管理」と題して開催し、21 名（学部 2 年生から博士後期大学院生まで 16 名の学生、博士研究員 2 名、関連分野の教員 3 名）が聴講しました。およそ 80 分の講演の後、質疑応答では多くの学生が挙手し、教員を交えて有意義な意見交換を行いました。また、セミナー後には懇親会を開催し、当研究室の学部学生が自身の研究内容を紹介しました。



第 69 回明大昆虫セミナー



セミナー後の懇親会

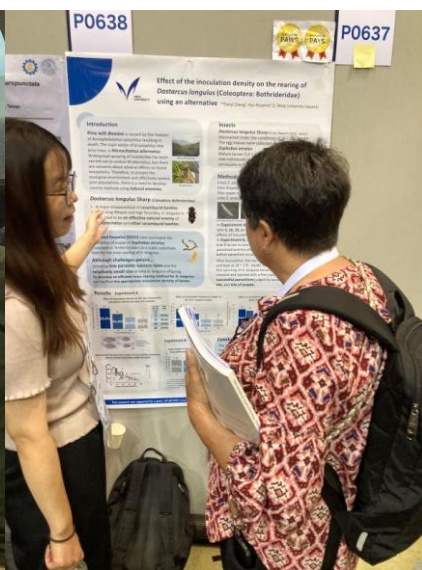
8月24日(土)に京都市内へと移動し、25日(日)から8月30日(金)の6日間は、第27回国際昆虫学会議(ICE2024)に出席しました。ICEは、4年ごとに開催される昆虫学分野では世界最大規模の学術会議であり、今回の参加者は4000人を超えました。また、開会式は、秋篠宮殿下夫妻も臨席されて厳かな雰囲気で行われました。開会式後の歓迎会は、和太鼓の演奏や花火の打ち上げで大変盛り上がりしました。Arnó博士には、多くの研究者を紹介して頂きました。会期中の26日(月)には、ICEの運営で中心的な役割を担っている京都大学の日本典秀教授と面会し、打合せを行いました。日本教授はArnó博士と知り合った際の仲介役でもあり、今後の共同研究について意見交換を行う貴重な機会となりました。さらに、28日(水)および29日(木)には、当研究室の大学院生4名、卒業生2名のポスター発表や口頭発表があり、Arnó博士には全ての発表について多くの助言を頂きました。その成果もあり、卒業生2名は、優秀ポスター発表(若手研究者部門)と優秀口頭発表(女性研究者部門)に選出されました。

会期の後半は、台風10号の動きに翻弄されました。30日(金)にも当研究室の大学院生1名によるポスター発表が予定されていましたが、交通機関への影響が深刻な状況となったため、翌日の離日に向けて、午前中から首都圏に移動することにしました。東海道新幹線が長期の運休となったため、敦賀駅を経由して北陸新幹線を利用し、6時間以上をかけて、無事に予定していた宿泊先のホテルにチェックインすることができました。

8月31日(土)の午前に、羽田空港にてArnó博士に別れを告げ、全ての予定を無事に終えることができました。今回の招聘期間中、しっかりと意見交換を行うことができましたので、今後は共同研究を再稼働させる所存です。末尾になりますが、貴制度による支援に心より御礼を申し上げます。



海外の研究者との交流



大学院生の発表へのコメント